

神戸大学医学部附属病院

感染症内科

指導担当医（役職）

大路 剛（准教授）

実習概要

実習コース

2週間コース・4週間コースどちらも可

概要

感染症内科の一員として診療およびカンファレンスに参加していただきます。担当患者さんを数名決めて毎日のカルテレビュー、回診を行い、患者さんに何が起こっているのかを一緒に考え、治療方針を含めてカンファレンスでプレゼンテーションを行っていただきます。臨床実習1, 2より進んだ内容として、希望と状況に応じて新規併診患者さんの初回フルプレゼンテーションおよび論文紹介も担当していただきます。

実習スケジュール

- 病棟ラウンド：感染症内科チームとして毎日担当患者さん(1~3名程度、希望により増減)の診察を行い、病状を把握する。担当患者さん以外の患者診察にも付き添う。
- カンファレンス：毎日13:30からカンファレンスに参加。主担当となる患者のプレゼンテーションを行う。
- 新規併診患者プレゼンテーション：感染症内科へ新規併診依頼のあった患者さんのカルテレビュー、診察を行い、カンファレンスでフルプレゼンテーションを行う。
- 病歴要約作成：担当患者さんの病歴要約を所定の様式に従って作成する。
- グラム染色：必要に応じて診断および治療効果判定のためにグラム染色を行う。スライド作成の手技の実施に加えて読影も行う。

6. ICU回診：麻酔科管理の感染症内科併診患者さんについては、ICU回診に参加して病態の把握、今後の治療方針などのディスカッションに参加可能。
7. 外来見学：任意
8. 論文抄読会：最近発表された感染症分野の論文を読み、批判的吟味を加えた紹介を行う。

学生へのメッセージ

感染症は臨床医として必ず遭遇する分野です。感染症内科は併診業務が主ですが、だからこそ主治医団の先生方以上に患者さんの状態を把握することが必要とされます。大事なのはアセスメントを立てることです。診察所見や検査所見、臨床経過から患者さんに何が起こっているのかを考え、その考えに沿って治療のプランを立てます。検査は漫然と結果を待つのではなく、結果に応じたプランを事前に立てるよう意識してみてください。臨床実習では感染症や微生物の知識や経験を積むことはもちろん大切ですが、これから医師になって患者さんの治療を行っていくうえで必要とされる考え方や、問題点の解決方法の探し方など、将来どの分野に進んでも役立つものを学んでいただければと思っています。